

## 地方公務員の公務災害の分析

平成 28 (2016) 年度、総務省では地方公務員災害補償基金に対して、同基金が保有する平成 22 (2010) 年 1 月から平成 27 (2015) 年 3 月までの期間に公務上と判断された脳・心臓疾患事案と精神疾患事案に関する公務災害認定理由書などの関連資料について提供を依頼し、提出された資料を調査分析資料とした。

過労死等調査研究センターでは、総務省から収集した調査分析資料に記載された情報をデータベースとして取りまとめ、このデータベースを基に公務上の災害と認定された脳・心臓疾患事案 84 件と精神疾患事案 106 件の分析を行った。

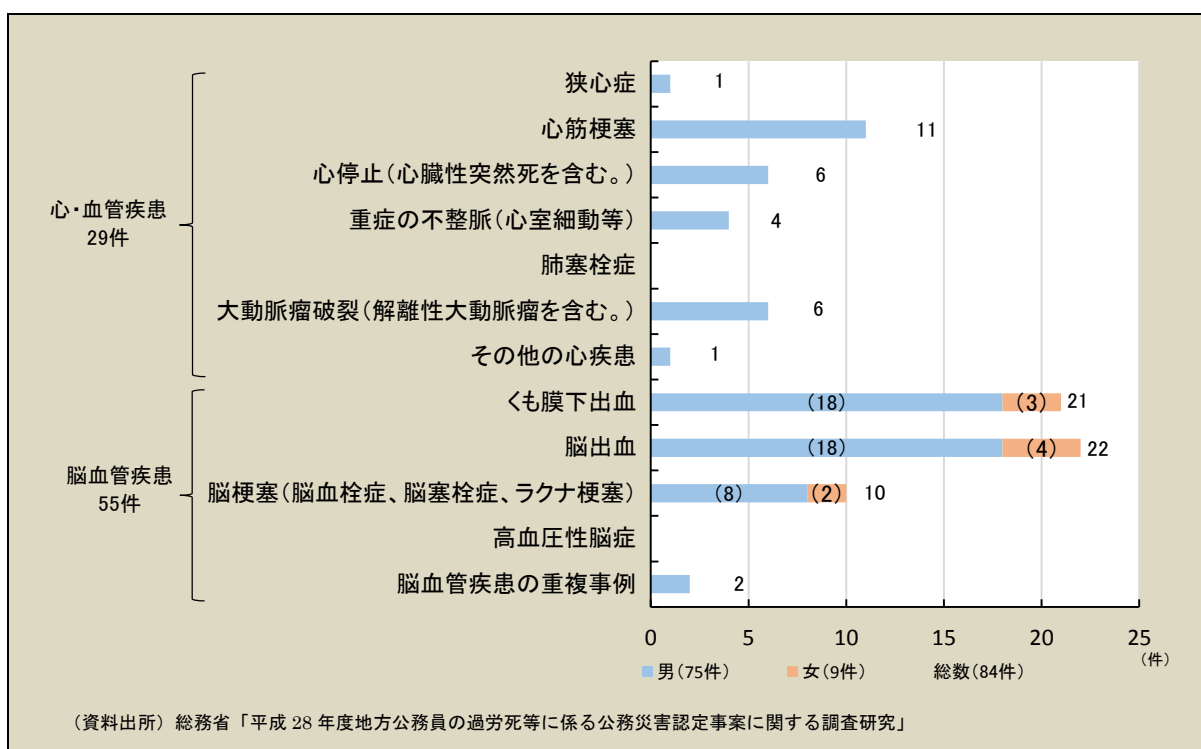
### ア 脳・心臓疾患

脳・心臓疾患 84 件中、「心・血管疾患」は 29 件、「脳血管疾患」は 55 件であった。男女別でみると、女性の認定件数 9 件は全て「脳血管疾患」であり、「心・血管疾患」はなかった。

「心・血管疾患」の主な内訳は、「心筋梗塞」が 11 件、「心停止(心臓性突然死を含む。)」と「大動脈瘤破裂(解離性大動脈瘤を含む。)」がそれぞれ 6 件、「重症の不整脈(心室細動等)」が 4 件であった。

脳血管疾患の内訳は、「脳出血」が 22 件、「くも膜下出血」が 21 件、「脳梗塞(脳血栓症、脳塞栓症、ラクナ梗塞)」が 10 件、「脳血管疾患(脳出血とくも膜下出血)」の重複事例が 2 件であった(第 1 図)。

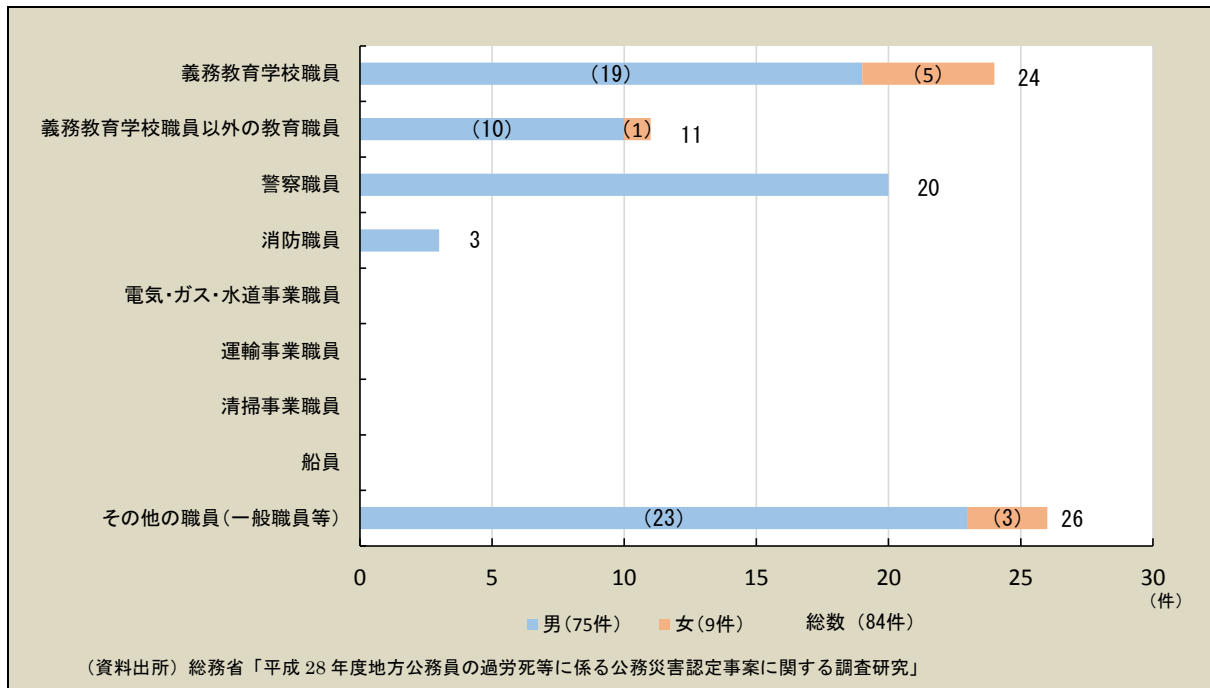
第 1 図 決定時疾患名の分布(脳・心臓疾患)



被災者の職種の内訳は、その他の職員（一般職員等）が 26 件、義務教育学校職員が 24 件、警察職員が 20 件、義務教育学校職員以外の教育職員が 11 件、消防職員が 3 件であり、電気・ガス・水道事業職員、運輸事業職員、清掃事業職員、船員の認定はなかった。

男女別でみると、全ての職種で男性が大半を占めているが、女性は 9 件のうち義務教育学校職員が 5 件であり、女性の認定件数の半分以上を占めている（第 2 図）。

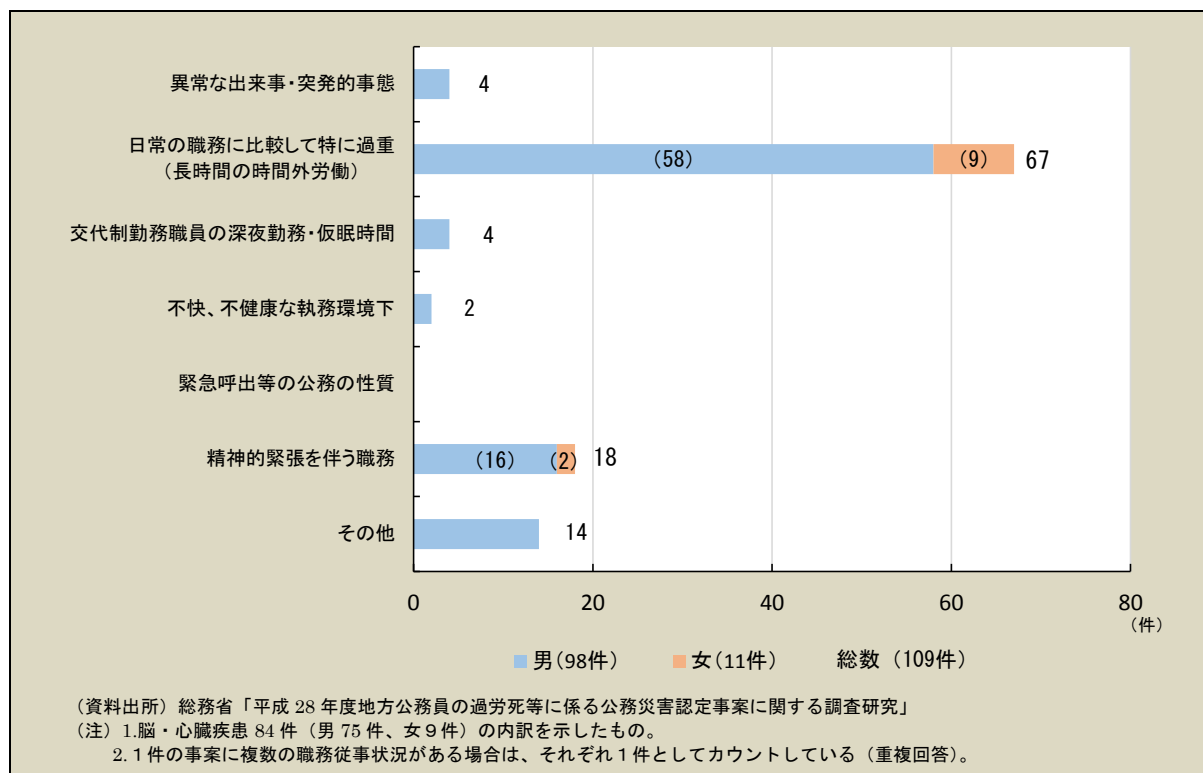
## 第 2 図 被災者の職種（脳・心臓疾患）



過重負荷が認められる職務従事状況（重複回答）の主な内訳は、「日常の職務に比較して特に過重（長時間の時間外労働）」が 67 件、「精神的緊張を伴う職務」が 18 件、「その他」が 14 件であった。

「日常の職務に比較して特に過重（長時間の時間外労働）」の件数は男女ともに最も多く、男性は 98 件のうち 58 件、女性は 11 件のうち 9 件（認定件数の 9 件全てがこれに該当）となっている（第 3 図）。

### 第3図 過重負荷が認められる職務従事状況（脳・心臓疾患）



#### イ 精神疾患・自殺事案

精神疾患 106 件中、「気分・感情の障害」は 48 件、「ストレス関連の障害」は 54 件、「分類できなかった事案」は 4 件であった。

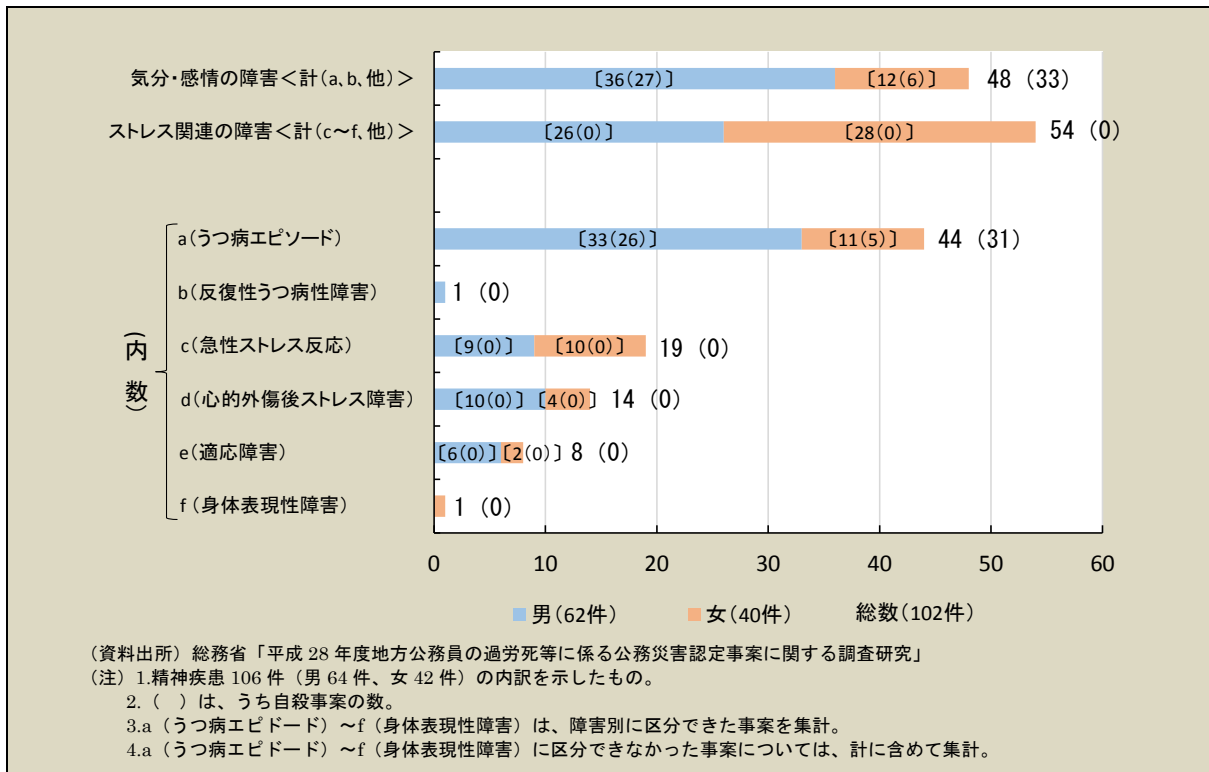
男女別でみると、男性は「気分・感情の障害」が多く 36 件、女性は「ストレス関連の障害」が多く 28 件となっている。

細分化した疾患名のうち、「気分・感情の障害」は「うつ病エピソード<sup>注1)</sup>」が 44 件、「ストレス関連の障害」は「急性ストレス反応」が 19 件、「心的外傷後ストレス障害」が 14 件、「適応障害」が 8 件となっている。

自殺事案は 33 件あり、全て「気分・感情の障害」で、このうち 31 件が「うつ病エピソード」であった (第 4 図)。

注 1) うつ病エピソードとは、抑うつ (気分の落ち込み) の症状を示す疾患。

## 第4図 決定時疾患名の分布（精神疾患）



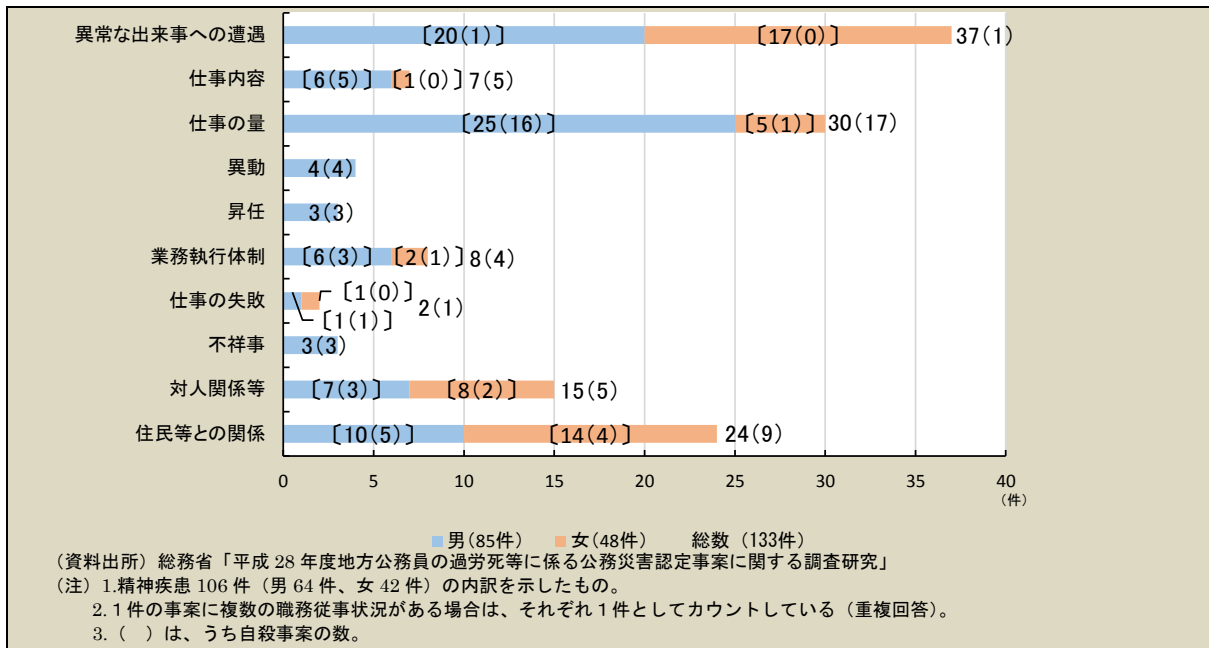
過重負荷が認められる職務従事状況（重複回答）の主な内訳は、「異常な出来事<sup>注2)</sup>への遭遇」が37件、「仕事の量」が30件、「住民等との関係」が24件、「対人関係等」が15件であった。

男女別でみると、男性85件のうち、「仕事の量」が25件、「異常な出来事への遭遇」が20件、女性48件のうち、「異常な出来事」が17件、「住民等との関係」が14件の順に多くなっている。

自殺事案は52件で、主な内訳は、「仕事の量」が17件、「住民等との関係」が9件、「仕事の内容」及び「対人関係等」がそれぞれ5件となっている。自殺事案を男女別でみると、男性は「仕事の量」が多く16件、女性は「住民等との関係」が多く4件となっている（第5図）。

注2) 自然災害への遭遇や医療機関等における暴力被害など職種に応じた出来事。

## 第5図 過重負荷が認められる職務従事状況（精神疾患）



過重負荷が認められる職務従事状況について、職種別にクロス集計すると、

- ・ 義務教育学校職員は、22件のうち「住民等との関係」が13件
- ・ 警察職員は、7件のうち「対人関係等」が3件
- ・ 消防職員は、9件のうち「異常な出来事」が9件
- ・ その他の職員(一般職員等)は、59件のうち「仕事の量」が25件がそれぞれ最も多くなっている(第6図)。

## 第6図 職種別にみた過重負荷が認められる職務従事状況（精神疾患）

